

讃美歌 406 番「友とわかるる」(カテゴリ:送別・旅行)は、ミッションスクールの卒業式(*1)等で歌われています。

- | | |
|--|--|
| 1. 友とわかるる つどいなれば
ころにかかる 雲はあれど
はるけき里に 夢路かよい
おもいをはこぶ つばさもあり | 3. 地なるこの世を 超えてたかき
あめなるみやこ あおぎ望み
旅路をたどる われらなれば
うたのしらべも 祈りも合わん |
| 2. すべていずこも 父のすまい
とまるもゆくも ただ御旨に
ゆだねしひとの くしき平和
友をまもれと 我らいのる | 4. かたく結べる この友がき (*5)
みめぐみの花 色はあせず
かおりをふかく ころにしめ
さちあれ友よ 主につかえて |

作詩者は豊田實(1885-1973)で、九州帝国大学法文学部長を定年退職後、第九代青山学院院長を 1946 年-1955 年務めました。作詩の経緯は、讃美歌改定委員会から、メンデルスゾーンの「6つの歌 op.59」の第3番「緑の森よ」(*2)(*3)をメロディーとした歓送の讃美歌を書く旨の依頼を受け、彼の恩師であった C.W.アイグルハート(*4)との別れを念頭において作詞(1953年)したとのこと。

■ Youtube 上の動画

讃美歌406番「友とわかるる」伴奏

<https://www.rcj.gr.jp/izumi/sanbi/sa406.html>

横浜市の日本キリスト改革派いずみ教会の S.K 長老により、当時高価で一般家庭ではなかなか手が届かないヒムプレーヤーの代替手段として、家庭礼拝等での讃美に供すべく 2012 年頃立ち上げられたサイトです。

讃美歌 1 編 406 番「友とわかるる」多重録音による伴奏付き合唱

<https://www.youtube.com/watch?v=yNXqX2tW8HI>

神奈川県日本キリスト教団都筑讃美教会の有志によります。

多重録音ソプラノパートの声質が、往年の名カウンターテナー、アルフレッド・デラー (Alfred Deller, 1912 - 1979) に似ていて、私は大好きです。 <https://ja.wikipedia.org/wiki/アルフレッド・デラー>

備考

(*1) 清和女子高等学校卒業礼拝前日キャンドルサービス

<http://seiwa-girl.ed.jp/高校3年生卒業キャンドルサービス/>

(*2) メンデルスゾーンの「6つの歌 op.59」の第3番「緑の森よ」

メンデルスゾーンがヨーゼフ・フォン・アイヒENDORF の詩「森への別れ」に付した合唱曲で、1843 年作曲。

Mendelssohn Op.59-3 (Abschied vom Walde) - Soprano practice

<https://www.youtube.com/watch?v=-hwvYjFfHs>

Mendelssohn Op.59-3 (Abschied vom Walde) - Alto practice

<https://www.youtube.com/watch?v=fVcWO-F4kDo>

Abshied vom Wald (No. 3 from Sechs Lieder, Op. 59) - Felix ... (四声合唱)

<https://www.youtube.com/watch?v=NaRcd2rO--4>

(*3) メンデルスゾーンの「6つの歌 op.59」の第3番「緑の森よ」歌詞対訳

https://gardenplacechoir.sakura.ne.jp/concert/20020727_18th_words.htm からの転載です

Abschied vom Walde 森への別れ

O Thäler weit, o Höhen, o schöner grüner Wald,
Du meiner Lust und Wehen andächt'ger Aufenthalt!
Da draussen, stets betrogen, saust die geschäft'ge Welt;
Schlag' noch einmal die Bogen um mich, du grünes Zelt!

深い谷よ、高みよ、美しい緑の森よ
私の喜びと悲しみの敬虔な場所
外は、欺き、ざわめく世界
再びアーチを張りめぐらせよ、緑のテントよ！

Im Walde steht geschrieben ein stilles ernstes Wort
Vom rechten Thun und Lieben, und was des Menschen Hort.
Ich habe treu gelesen die Worte, schlicht und wahr,
Und durch mein ganzes Wesen ward's unaussprechlich klar.

森に書かれている無言で厳粛な言葉
真実と愛、それは人間の宝
私は、素朴で真実のその言葉を読む
私のすべての存在はそこに瞭らかにある。

Bald werd' ich dich verlassen, fremd in die Fremde geh'n,
Auf buntbewegten Gassen des Lebens Schauspiel seh'n
Und mitten in dem Leben wird deines Ernst's Gewalt
Mich Einsamen erheben, so wird mein Herz nicht alt.

やがて私はお前をあとにする、見知らぬ地へ
さまざまな小路に人生劇を見る
人生の途でお前の厳粛な力が孤独を救う
私の心は老いることがない。

(*4) C.W.アイグルハート (1882-1969)

アメリカインディアナ州に生まれ、コロンビア大学およびドリュー大学 (神学修士号、博士号) で学ぶ。ニューヨーク市近郊で短期間牧師を務めた後、1909年にメソジスト派宣教師として日本に渡り、第一次世界大戦中はシベリアでYMCA 陸軍部に勤務。1919年に宣教師として東京に戻り、青山学院教授、メソジスト教会 (関東地区) 地区監督、日本キリスト教協議会の教育秘書、日本キリスト教年鑑の編集者を歴任した。第二次世界大戦中は、東アジア秘書としてニューヨークのメソジスト宣教局を支援。1946年に日本に戻り、後に東京国際基督教大学の客員教授を務め、「国際基督教大学創立史」を執筆した。

※上記は、

<https://www.bu.edu/missiology/missionary-biography/i-k/iglehart-charles-wheeler-1882-1969/> からの抜粋・加筆です。

(*5) 友がき

「友垣」は友人のこと。交わりを結ぶことを垣を結(ゆ)うのに例えた言葉。

※ 左図は「竹垣」を例にした垣根の基本構造 ⇒

出典: http://sakuraso.jp/house/modules/hachi/index.php?content_id=12

